



令和7年度

学校評価報告書



越前町立越前小学校

目次

1.	スクールプラン	…P 1
2.	学校評価年間計画	…P 2
3.	評価の指標について	…P 3
4.	具体的項目別評価	…P 4 ~ 8
	➤ 学びづくり	
	➤ 絆づくり	
	➤ チームワークのある教職員	
5.	学校評価アンケート集計結果	…P 9
6.	学校関係者評価書	…P 10 ~ 11

令和7年度 越前小学校スクールプラン(学校評価項目)の具体的方策

学校教育目標 ふるさとを愛し 自分らしく輝く 越前の子

研究テーマ 「自ら学び高め合い はげまし合う」子どもの育成

中期重点目標	本年度目標	具体的方策
〈学びづくり〉 ・授業改善による学力の向上 ・考えを広げ、よりよい学びを生み出す学び合いの実現	① 「授業がわかる」と答える児童を90%以上にする。(肯定的評価) ② 「授業に主体的に取り組んでいる」と答える児童を90%以上にする。(肯定的評価)	1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ・子供の思考ツールとなり学び合いを促す ICT の活用。 ・生徒指導の4つの視点を働かせた授業デザイン。 2 主体的・対話的で深い学びの実現 ・主体的に学ぶために発意を促す課題の設定。 ・自分の考えを深めたり、広げたりすることができそうな話し合い活動の工夫。 ・振り返りの場面や評価の方法を工夫し、学習過程や成果を把握して、指導と評価の一体化を図る授業改善。
〈絆づくり〉 ・心の居場所をつくり、認め合い、支え合う絆をつくる。 ・ポジティブ教育による豊かな心と元気で健やかな体を育てる。	① 「学校が楽しい」と答える児童を90%以上にする。(肯定的評価) ② 「みんなで何かをするのは楽しい」と答える児童を90%以上にする。(肯定的評価)	1 安全・安心な学校 ・いじめや不登校の未然防止、早期発見に向けた情報交換、心のお天気調べ、いじめアンケート等による実態の把握と共有。 ・子どもの発達を支える生徒指導を通した、認め合い、支え合う人間関係づくり。 2 自分たちでつくる学校(児童が主体となる学校) ・海の子グループを中心とした異学年集団での活動の充実。 ・よりよい学級・学校をめざして、児童が主体的に参画し、試行錯誤できる場の設定。 3 自らつくる健康な体、健康な生活 ・体力アップに向けた漁り火タイムの工夫。 ・子どもが自ら生活を振り返り、心身の健康について考え、基本的な生活習慣を確立していく機会の設定。
〈チームワークのある教職員〉 ・心身ともに健康でやりがいをもって働く	① 「学ぶ合う教職員集団として連携・協働ができた」と答える教職員を90%以上にする。 ② 新たな業務改善を行い、時間外勤務時間を月平均45時間以下にする。	1 タブレットを活用した情報、教材の共有 ・今までの実践やワークシート等の共有を推奨する。児童が閲覧可能なきょうざいデータを活用し、学びの連鎖を促す。 2 チーム担任制など、協働して越前の子に合った授業力について学ぶ。 ・副担任、教科担任制、合同授業等、多面的な指導を可能にする体制を整える。 1 文書事務、会議等の効率化 ・タブレットを活用してペーパーレス化を進め、事前に資料を共有し、時間短縮を目指す。 2 行事・会議等のさらなる精選 ・業務を適切に分担し、各部会等での協働を図り、行事後に次の企画を提案する。

令和7年度 学校評価年間計画

越前小学校

	月	教 職 員 ・ 児 童	保護者・地域	学校関係者評価
P	四 月	・学校経営計画(スクールプラン)作成 ・学校評価計画作成		・入学式 ・学校関係者評価委員 委嘱
D	四 月 六 月	・1学期学校評価の取組 ・授業参観,学年懇談会 4月25日(金) 学校説明会(学校経営・学校評価) ・学校関係者評価委員との顔合わせ ・越前小体育大会 5月17日(土) ・前期指導主事訪問日 6月18日(火)	・授業参観,学年懇談会 ・ファミリー種目 ・PTA役割	・第1回家庭・地域・学校 協議会 5/9(金) ・運動会参観 ・授業参観
C	七 月 八 月	・1学期保護者会 7月16日(水) *1学期の取組に関するアンケート実施,集計 *1学期の検証・取組の見直し *2学期に向けた改善策の設定 ・校内自己評価委員会	・授業参観 ・親子健康集会	・第2回家庭・地域・学校 協議会 7/16(金)
A	九 月 十 月	・2学期学校評価の取組 ・後期指導主事訪問 11月21日(金)		・授業参観
C	十 二 月	・2学期保護者会 12月19日(金) *年間自己評価アンケート実施 *年間自己評価アンケート集計・分析・検証 *改善策の作成	・授業参観 (ふるさと学習発表会)	
A	一 月	・校内自己評価委員会 1月 7日(水) 学校説明会(年間自己評価説明) ・3学期学校評価の取組 学校関係者評価報告会		・第3回家庭・地域・学校 協議会 1/9(金) ・学校関係者評価報告書作成 ・第4回家庭・地域・学校 協議会 1/23(金)
	二 月	・学校評価報告書の作成,提出(町教委)		
P	三 月	・学校評価報告会 ・次年度学校評価計画の作成 年間自己評価の公表(学校だより・ホームページ)		・卒業式 3/13(金)

評価の指標について

令和7年度

Ⅰ アンケートの数値結果に基づく評価

評価の基準（中間、年間）

評 価		判 断 の 根 拠 と な る 状 況
◎	とても良い	肯定的評価が90%以上で、一番良い評価が50%以上
○	良い	肯定的評価が90%以上だが、一番良い評価が50%未満 肯定的評価が75%～90%未満
△	課題がある	肯定的評価が75%未満

2 具体項目の総合評価の基準（年間）

評 定		判断の根拠となる状況	対 応
S	とても良い	・全校で本年度目標が達成されており、取り組み状況（及び満足度状況）が良い。 （例）「評定A」に比べて成果・取り組み（満足）が優れた状況にある。	・継続する ・目標を見直す
A	良い	・全校で本年度目標は達成できていないが、取り組み状況（及び満足度状況）が良い。 ・全校では本年度目標は未達成であるが、ほとんどの学年で達成できている。 ・肯定的な意見、感想が多い。 （例）一部改善することにより、さらに良くなると考えられる。	・改善する
B	課題がある	・全校で明らかに目標が達成できていない。 ・全校で目標が達成できていない。さらに、取り組み状況（満足度状況）が良くない。 ・否定的な意見、感想が多い。 （例）「評定A」に比べて成果・取り組み（満足度）が不十分な状況にある。	・抜本的に改善する
C	課題が多い	・全校で、目標を大きく達成できていない。 ・全校で目標を達成できていない。さらに、取り組み状況（満足度状況）が悪い。 ・否定的な意見、感想などがとても多い。 （例）「評定A」に比べて成果・取り組み・満足度が極めて不十分な状況にある。	・新しい視点で変更する。 ・廃止する。

具体項目	学びづくり						
重点目標	・授業改善による学力の向上 ・考えを広げ,よりよい学びを生み出す学び合いの実現						
数値目標	具体的方策	目標達成状況				評価	
①「授業がわかる」と答える児童を90%以上にする。 (肯定的評価)	1 個別最適な学びと協働的な学びの一体的な充実 ・子供の思考ツールとなり学び合いを促すICTの活用。 ・生徒指導の4つの視点を働かせた授業デザイン。	(児) 毎日の授業がよく分かりますか？				○	
		はい	だいたい	すこし	いいえ		
		47%	51	1	1		
		(児) 課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいましたか。				◎	
		51%	44	4	1		
		(教) 学び合いにおいてICTを効果的に活用しましたか？				◎	
		64%	36	0	0		
		(児) 学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができましたか。				◎	
		56%	42	1	1		
		②「授業で、仲間たちと良い学び合いができた」と答える児童を90%以上にする。 (肯定的評価)	2 主体的・対話的で深い学びの実現 ・主体的に学ぶために発意を促す課題の設定。 ・自分の考えを深めたり、広げたりすることができるような話し合い活動の工夫。 ・振り返りの場面や評価の法を工夫し,学習過程や成果を把握して,指導と評価の一体化を図る授業改善。	(教) 発意を促す課題を設定し、評価基準を具体的にイメージした単元構想ができましたか。			
20%	80			0	0		
(教) 評価や振り返りの場面や方法を工夫することができましたか。				○			
18%	82				0	0	
(児) 地域や学校をよくするために、何かをしてみたいと思いますか。				○			
49%	48				2	1	
(保) お子さんは、学校で学習したことを話したり、家庭で実践したりしていますか。				○			
30%	50				17	3	
総合評価					A		

取組状況	・ICT活用について、新しい端末に切り替わっても滞りなく操作できるように、県のDX推進室による支援を受けながら学習支援アプリの使い方研修を定期的に行った。また、AIドリルの活用を目指してベネッセ担当者による使い方研修を行った。さらに、教員間で情報を共有するため、2学期からは月末にペア学年で学級づくりとICT活用の振り返りを行った。 ・他者参照できる場を設け、自己や他者を認め合う活動を授業に取り入れた。多様な学び方や、目標づくりを認めることで、自己決定できる場をつくり、主体性を引き出す工夫を行った。また、学期ごとに各学年の目指す「学び合いの姿」の目標設定を行い、全校で共有、振り返り、次学期の目標づくりの機会を設けた。 ・発意を促す課題の設定を行うため、単元を貫く問いをデザインした授業づくりを行った。県の「深い学びを目指した授業づくり支援」を受けることで県内の授業実践のアイデアを参考にしたり、どのような活動を通して試行錯誤するのかを教員間で議論したりしながら単元構想を行った。 ・児童が学習において何ができるようになったかを丁寧に把握し、指導を改善していく指導と評価の一体化を実現するため、夏季休業中に「見取りの視点」や、「評価の方法」をどのようにデザインしていくかについての校内研修を行った。
総括	〈成果〉 ・ICTの専門的なアドバイスを受けられる研修を重ねたことで、端末更新後もスムーズに操作し、授業に活用することができた。また、授業時や、家庭学習にAIドリルを活用する学年が増え、理解度に合わせた学習を設定することができた。これらのことから、「学び合いにおいてICTを効果的に活用した」とすべての教員が回答した。 ・授業支援アプリを活用し、他者参照や途中参照の場を設定したことで、児童は理解度やつまづきに応じて友達の考えからヒントを得たり、自分との違いに着目したりすることができていた。また、学期ごとに各学年の「学び合いの姿」を全校で共有することで、教員の意識向上につながった。 ・県の指導主事のアドバイスを受けながら単元を貫く問いをデザインしたことで、目標を明確にした授業づくりを行うことができた。このことから、ほとんどの児童が、「授業がよく分かる」や、「主体的に協働学習ができた」と感じている。 ・「見取りの視点」や「評価の方法」についての研修を行ったことで、「目指す児童の姿」を授業の観点とする授業研究会を行うことができた。見取った児童の姿を根拠に、教師の働きかけや授業の仕掛けについて語り合うスタイルを確立することができた。また、参観授業での児童の見取りを自身の授業に生かしたことで、「評価や振り返りの場面や方法を工夫することができた」と回答する教員の割合が増えた。 ・地域の方々と密接に関わりを持って活動を行なった学年では、「地域や社会をよくするために、何かを工夫してみたい」と回答する児童が多く見られ、地域の人、もの、ことの視点が増えた。 〈課題〉 ・児童アンケートについて、2学期のすべての学びづくりに関する内容について「できた」と回答する児童の割合が減った。2学期の学習内容の難易度が上がっていることも原因だと考えられるが、チーム担任制を導入した学年では、高い割合を保っていることから、複数の教員が児童を見取る機会を増やしていく必要がある。 ・学び合いの姿を各学年で設定し、校内で共有したが、学期ごとの目標では期間が長いいため、到達目標が高すぎたり、評価の場面が少ないことで児童の意識が希薄になってしまったりした。 ・授業づくりを協働してじっくり行うことができたが、その分、会議や、検討会に時間をとることが多く、負担に感じる教員もいた。
次年度へ向けての取組	・複数の教員で、児童を見取り、導く効果が高いことが分かったため、2学期から導入しているペア学年での学級づくりの振り返りを充実していく必要がある。また、学びづくりに関する児童アンケートにおいて「できる」と回答する割合が低いのは、学年の学び合いの目標に対して、振り返る場面が少なかったり、授業ごとで振り返りの視点に取り入れられなかったりすることが原因の一つと考えられる。そこで、学習に関して、児童が振り返る場面を増やし、ペア学年教員の振り返りの際に児童の振り返りを根拠にして、指導の改善や協力体制の方針を決めていくとよい。 ・ふるさと学習において、地域と繰り返し関わる活動を行なった学年では、地域や社会に関する意識が向上したため、今年度つながった地域人材や、地域を支える関係機関の情報を一覧にし、学年間で共有していくことで、継続した取り組みを可能にしていく。また、小学校で積み上げた学習成果を中学校でも生かしていくため、小中連携においてふるさと教育の軸を共有していく必要がある。

具体項目	絆づくり							
重点目標	・心の居場所をつくり、認め合い、支え合う絆をつくる ・ポジティブ教育による豊かな心と元気で健やかな体を育てる							
数値目標	具体的方策	目標達成状況				評価		
①「学校が楽しい」と答える児童を90%以上にする。 (肯定的評価)	1 安全・安心な学校 ・いじめや不登校の未然防止、早期発見に向けた情報交換、心のお天気調べ、いじめアンケート等による実態の把握と共有。 ・子どもの発達を支える生徒指導を通した、認め合い、支え合う人間関係づくり。 2 自分たちでつくる学校 (児童が主体となる学校) ・海の子グループを中心とした異学年集団での活動の充実。	(児) 学校は楽しいですか？				◎		
		はい	だいたい	すこし	いいえ			
		64%	31	4	1			
				(児) 学校生活で困ったことがあった時に、誰かに相談したり、友だちと助け合ったりできましたか。				○
				49%	43	5	3	
						(教) 児童の情報を全職員で共有し、いじめ・不登校等の早期発見・早期対応に努めましたか。		
		100%	0			0	0	
						(児) みんなで何かをするのは楽しいですか。		
				82%	17	1	0	
				②「みんなで何かをするのは楽しい」と答える児童を90%以上にする。 (肯定的評価)	・よりよい学級・学校をめざして、児童が主体的に参画し、試行錯誤できる場の設定。 3 自らつくる健康な体、健康な生活 ・体力アップに向けた漁り火タイムの工夫。 ・子どもが自ら生活を振り返り、心身の健康について考え、基本的生活習慣を確立していく機会の設定。	(児) よりよい活動になるように考えて、係・委員会活動や学校行事に進んで取り組むことができましたか。		
46%	51	3	0					
		(教) 学校生活の様々な場面で、児童同士が認め合い、支え合って活動できるような場の設定や支援をすることができましたか。				○		
		27%	73				0	0
						(児) 健康に気をつけて、毎日を過ごすことができましたか。		
58%	36					6	1	
						(教) 体育的活動に個々に応じたためあてをもたせ、主体的に取り組めるように工夫することができましたか。		
		18%	82			0	0	
						総合評価		

取組状況	・「心のお天気調べ」や「いじめアンケート」を通して、児童の実態把握に努めたことで、大きなトラブルの未然防止につながった。 ・各学級では学校行事を通して、お互いの良いところ探しを行い、認め合い、支え合える場を継続的に設定し、より良い学級づくりに努めた。 ・縦割り班による自主運営として、学校生活の様々な場面で、児童が主体となって計画実践、振り返りを行った。図書委員会による本の紹介活動や運営委員会と保健給食委員会が主体となって行ったお互いを知る活動など縦割りを意識した取り組みを行うことができた。 ・各学級において、クラスがよりよくなるための係活動を設定し、定期的に児童が振り返りを行い、活動内容を改善していくようにした。 ・体育委員会を中心に、漁り火タイムの充実に向けて内容を定期的に見直し、児童が目標に向かって取り組めるようにした。 ・親子健康集会では、「心の健康について」自分自身の生活習慣と関連づけて健康課題について親子で考える機会を設定した。
総括	〈成果〉 ・終礼等で報告、連絡、相談を密に行い、全教職員が気がかりな児童や問題行動の実態把握に努め、各学年でもお互いに認める場を継続して持つようにしたことで、「学校は楽しい」と肯定的評価をした児童は90%以上、保護者アンケートでも97%の保護者が「学校に楽しく通っている」と肯定的評価をしている。 ・委員会活動や縦割り遊び、様々な活動を縦割りを意識して行うようにしたことで、上の学年が下の学年を支える雰囲気ができあがった。 ・児童がそれぞれ目標を持ちながら、意欲的に業間運動に取り組んだ結果、マラソン大会ではほとんどの児童が練習よりも記録が向上した。 〈課題〉 ・いじめにつながるSNS上でのトラブルが起きないための未然防止を徹底していく必要がある。各学級で、学活や道徳などで、継続してSNSについてとりあげることで、知識を増やしたり、使用の仕方を考えさせたりしていく。また、家庭でのスマートルールを定期的に振り返ることで、SNSの正しい使い方の意識を高める。 ・児童がより主体的に活動できる学校にしていく。係、委員会活動で取り組んでいることを、定期的に見直し、改善していけるようにする。また、学校の課題を見つけて、課題解決に取り組めるようにする。 ・「学校は楽しい」の一番良い評価が50%未満の学年も見られるので、児童同士のきずなづくりや居場所づくりを今後も大切にしていける。週に1度設定されている特別活動の時間を見直し、児童同士が認め合い、支え合って活動できる内容や学年の実態に応じて、ソーシャルスキルやポジティブ教育を行うようにする。 ・不登校ぎみの児童が少しずつ増えている。不登校解消のため、普段から魅力ある学校づくりを意識して実践を行っていく。また、場面に応じてケース会議を設定し早めの対応を考えたり、関係機関との連携を図ったりしていく。
次年度へ向けての取組	・魅力あるウェルビーイングな学校づくりに向けて、児童が主体的に参加・活躍できる場と機会を学級活動や学校行事と関連させて設定する。今年度の取り組みから、成果と改善できる活動を次年度へ引き継いでいく。 ・特別活動や学校行事を通して、安心・安全な学校・学級づくりに取り組み、児童一人一人が、楽しく学校に通えるようにする。 ・健康への意識は高まっているが、健全な生活習慣の定着には至っていない。メディア機器の使用を含めて、健全な生活習慣の確立に向けて、家庭と連携しながら、粘り強く働きかけていく。 ・業間運動など体育的活動において、めあてに対しての振り返りを行う場を継続して持ち、向上心を持って取り組めるようにする。

具体項目	チームワークのある教職員					
重点目標	心身ともに健康でやりがいをもって働く					
数値目標	具体的方策	達成状況				評価
①「学び合う教職員集団として連携・協働ができた」と答える教職員を90%以上にする。	1 タブレットを活用した情報、教材の共有 ・今までの実践やワークシート等の共有を推奨する。児童が閲覧可能なきょうざいデータを活用し、学びの連鎖を促す。	学び合う教職員集団をめざして、連携・協働ができましたか。				◎
	2 チーム担任制など、協働して越前の子に合った授業力について学ぶ ・副担任、教科担任制、合同授業等、多面的な指導を可能にする体制を整える。	はい	だいたい	すこし	いいえ	
		77%	23	0	0	
②新たな業務改善を行い、時間外勤務時間を月平均45時間以下にする。	1 文書事務、会議等の効率化 ・タブレットを活用してペーパーレス化を進め、事前に資料を共有し、時間短縮を目指す。	新たな業務改善を行い、効率的な働き方をめざして、タイムマネジメントを心がけましたか。				○
	2 行事・会議等のさらなる精選 ・業務を適切に分担し、各部会等での協働を図り、行事後に次回の企画を提案する。	はい	だいたい	すこし	いいえ	
		32%	68	0	0	
			時間外勤務時間の月平均		36時間40分	◎
		総合評価			A	
総 括						
○学び合う教職員集団をめざして、連携や協働に取り組むことができた。 ・県の指導主事による、学調分析、国語授業研究、特別支援についての研修を行った。 ・plant等を利用して取り組んだ個人研修の共有の場を設け、子どもの学びの姿について、経験を通して共通理解を図った。 ・スクールカウンセラーの指導の下、Q-Uの結果を基に、実践研究した。 ・終礼時に児童についての情報交換により、全教職員で状況を共有し、多面的な観察を促し、適宜ケース会議につなげるなど、迅速にチームで対応することができた。 ☆子どもの学びと教師の学びは相似形と言われるが、上記取組により、個別最適な学びと協働的な学びを目指す教職員自身が、実体験により学ぶことができたことは非常に意義深い。 ☆職員室を始め、様々な場面で、学年や部会にこだわることなく、活発に知恵を出し合う姿が随所に見られるようになった。 □新たな業務改善を行い、時間外勤務時間を月平均45時間以下にすることはできた。 ・再編により、2校のデータや資料のコピー＆アレンジをすすめた。 ・職員会議は完全ペーパーレスとし、事前資料確認を推奨した。 ・Home&Schoolによる各種配布文書やアンケート等のペーパーレス化に、可能なところから取り組んだ。						
次年度へ向けての取り組み						
・県の施策である『『深い学び』を目指した授業づくり支援』、及び夏季研修中の一人一講座受講と共有を継続し、教職員自身が、主体的・対話的で深い学びに取り組み、学びの相似形につなげる。 ・業務改善に向けて、必要性についての理解をすすめ、やることリスト作成を推奨することで、タイムマネジメントに努める。 ・会議は、開始時刻と終了時刻を明示する。						

令和7年度 学校評価アンケート集計結果

※結果数値の見方:◎…4段階評価(はい・まあまあ・あまり・いいえ)のうち、肯定的評価90%以上かつ「はい」が50%以上
 ○…肯定的評価90%以上だが、「はい」が50%未満、または肯定的評価75%～90%未満
 △…肯定的評価が75%未満
 評価欄の%は、肯定的評価(「はい」+「だいたい」)の割合、(%)は「はい」と答えた割合

児 童		教 職 員		保 護 者	
学 び づ く り（授業改善による学力の向上）（考えを広げ、よりよい学びを生み出す学び合いの実現）					
・毎日の授業がよく分かりますか。 （※意識調査4）	○ 98%(47%)	・発意を促す課題を設定し、評価基準を具体的にイメージした単元構想ができましたか。	○ 100%(20%)	・お子さんは、学校で学習したことを話したり、家庭で実践したりしていますか。	○ 80%(30%)
・課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいますか。（意識調査3）	◎ 95%(51%)	・評価や振り返りの場面や方法を工夫することができましたか。	○ 100%(18%)		
・学級の友達との間で話し合う活動を通して、自分の考えを深めたり、広げたりすることができましたか。	◎ 98%(56%)	・学び合いにおいてICTを効果的に活用しましたか。	◎ 100%(64%)		
・地域や社会をよくするために、何かをしてみたいと思いますか。	○ 97%(49%)				
絆 づ く り（心の居場所をつくり、認め合い、支え合う絆をつくる）（ポジティブ教育による豊かな心と元気で健やかな体を育てる）					
・学校は楽しいですか。 （意識調査1）	◎ 95%(64%)	・児童の情報を全職員で共有し、いじめ・不登校等の早期発見・早期対応に努めましたか。	◎ 100%(100%)	・お子さんは、学校に楽しく通っていますか。	○ 97%(45%)
・みんなで何かをするのは楽しいですか。 （意識調査2）	◎ 99%(82%)	・学校生活の様々な場面で、児童同士が認め合い、支え合って活動できるような場の設定や支援をすることができましたか。	○ 100%(27%)	・お子さんは、健康な生活を送ることができていますか。（生活習慣・食事、運動、睡眠など）	○ 94%(31%)
・よりよい活動になるように考えて、係・委員会活動や学校行事に進んで取り組むことができましたか。	○ 97%(46%)	・体育的活動に個々に応じたためをもち、主体的に取り組めるように工夫することができましたか。	○ 100%(18%)		
・健康に気をつけて、毎日を過ごすことができましたか。	◎ 94%(58%)				
・学校生活で困ったことがあった時に、誰かに相談したり、友達と助け合ったりしていますか。	○ 92%(49%)				
チ ャームワークのある教職員（心身ともに健康で、やりがいをもって働く）					
		・学び合う教職員集団をめざして、連携や協働ができましたか。	◎ 100%(77%)		
		・新たな業務改善を行い、効率的な働き方をめざして、タイムマネジメントを心がけましたか。	○ 100%(32%)		

令和7年度 学校関係者評価書

越前町立越前小学校 学校関係者評価委員会

中期 重点 項目	自己評価書等への感想・意見
学 び づ く り	○DX推進室の先生やベネッセの方など外部の専門家から指導を受け、全教員がICTを活用した授業づくりに努力されていることが見て取れた。また、県指導主事より定期的に支援を受け、計画的・継続的に単元を貫く問いを中心に据えた授業づくりを研究してきたことが見て取れた。以上のことが、「授業がよくわかる」と回答する児童98%につながったと推察でき、大きな成果を上げていると評価できる。 ○総合評価が A ランクで、児童と教員が共に前向きに取り組めたのではないと思う。また、取組の中に「協働的」に取り組むという表現があり、目標を明確にして共に力を合わせて進めて行けたように伺えた。 ○自分が子どもの頃と違い、個人の意見を発表する授業がよく見られる。自分の考えをまとめ、言葉にし、みんなの前で発表する力、また、他の子の考えを聞き、自分の考えと共感すること、違う考えを聞くことができるとてもよい場だと思う。 ○授業参観したときに、「越前町(特に越前地区)」についての問題点や今後どうしたら良いのか」ということを子どもたちが考える授業を見て、とても驚いた。と同時にとても素晴らしいことだと感じた。今後も続けていっていただきたい。 ○有終西小学校との交流の継続から得られる歴史的つながりは大きいと思われる。無理のない形で継続していっていただきたい。 ○授業が「わかる」と答えている児童が多いのに、逆に「できる」と回答する児童が少ないという結果をよく分析していただきたい。皆が人の話に静かに耳を傾け、一生懸命考え、そして、自分の考えを人前で発表していけるような質の高い学習集団づくりを目指していただきたい。 ○ICT を活用した合理的思考と自然の摂理に沿った自然科学的思考の両輪が十分に機能した学習であってほしい。 ○子どもたちが他の人の話、意見をしっかり聞いているのか少し気になった。 ○周りの大人がしっかりと心で目を見て、心で話し、心で聞き、傾聴や共感や見守りを心がければ、人の話をしっかり聞ける子どもになると思う。 ○「見取りの視点」など具体的に見取った内容が、こちら側と共有できると良いと思う。
絆 づ く り	○「学校が楽しい」「みんなで何かをするのは楽しい」と答える児童の割合が高いのは、素晴らしいことである。この数値が100%となることを目指して、今後も取組を継続していただきたい。同様に「誰かに相談したり、助け合ったりできる」児童も限りなく100%に近づくことを期待する。 ○総合評価が A ランクで、心身とてもいい環境で学校生活ができていると感じた。「学校が楽しい」という割合が90%以上というのがそれを物語っている。 ○児童が少ないからこそできる絆づくりがあると思う。例えば、縦割り班の組み直しや役割の交代など、全児童と交わる機会を増やすことで絆がより深まるのではないだろうか。 ○SNSについての諸問題は、小・中・高、さらに大人になっても関わりの切れない課題であることから、小学校段階から切れ目なく丁寧に指導していくことをお願いしたい。 ○「心のお天気調べ」という項目があり、実際どういうものか、また、そこから何を読み取りどう対応したのか興味を持った。

	○不登校ぎみの児童が少しずつ増えているとのことで、不登校はどこの学校にもあると思われるが、原因究明と不登校解消の努力をお願いしたい。 ○不登校児童が少しずつ増えている件で、原因はいろいろあると思われるが、例えば、いじめが原因の場合、いじめる方もいじめられる方も学校だけで解決できない、家庭や地域に起因するものがあるのではないかとと思われる。ときには、先生方が踏み込めないところまで、我々が法律や人権に触れない範囲内で関わってもよいのでないだろうか。 ○教員や親にとっての「良い子」がその子にとってどうなのか？ その子にとっての100点が取れるといいなと感じた。喜怒哀楽があって当たり前。それを表現できる場であって欲しいと願う。 ○「心の健康」についての取り組みとして、睡眠時間はとても大切に思う。便利が優先し何かに頼ろうとする(機器を含め)風潮の中で、本来の自然体に戻してくれるのが睡眠だと認識している。何時に寝て、何時に起きるなどの把握もあっていいような気がした。 ○地域の中でも貴重な子ども達である。まずは、あいさつから地域の人たちともつながっていくことで、見守られている安心を得られる子どもたちもいると思う。地域とつながり、ふるさとの良さに気づけば、過疎化を解決することにつながるのではないかと。学校、家庭、地域の連携は必要だと思う。
チームワークのある教職員	○研修の体制が万全であることに感銘を受けた。越前小学校の先生方が主体的・協働的に学び合い、授業力や生徒指導力などを着実に向上させていると見て取れた。 ○学校行事に参加すると、先生方のチームワークが良いと感じる。数多い仕事の中でも大変な仕事だと思うが、優先順位をつけて業務を進め、時間外勤務時間を減らし、プライベートを充実させることが先生方の心身も安らぎ、それがまた仕事に生きてこれられると思う。先生のことも子どもはよく見ていると思うので、先生のやる気(やりがい)が子どもに伝わって大きな力になると思う。 ○本年から学校が統合された中で、それぞれの学校の持ち味を活かしながら進めて来られた背景が伺えた。そんな中でも時間外勤務時間も減っていることから家へ持ち帰りは増えていないか心配になった。 ○複数の教員で、児童の見取り、導く効果についてであるが、企業等における組織論からすると、2人で3人分の仕事ができるようになるのが理想であり、十分可能である。慣れてくれば、言葉で意思疎通しなくても、お互いの行動を確認しフォローし合うだけで、可能になると思われる。 ○若い先生方にどうして教職を目指したのかと聞くと「良い先生との出会いがあった」「授業が面白かったから」という答えが返ってくる。アンケート結果も含めて、児童、保護者、他の先生方に教職の魅力をアピールしていただきたい。
その他	○開校(統合)の初年度ということで、たくさんの混乱があり、大変ご苦労されたと推察する。そのような中で、児童・保護者・地域・学校が連携して教育活動に取り組み、成果を上げていることについて大いに評価する。 ○新小学校への移行は上出来であると思う。今後も児童・保護者・地域との交流をさらに緊密にして教育活動がスムーズに行われるようにしていただきたい。 ○新たな越前小学校の一年目、先生方は、十分に頑張ってくれたと思う。子どもの本能的感性は素晴らしく、親や大人の不安やストレスを敏感に感じ取る。子どもが安心して一日のスタートを切って登校でき、先生方がプレッシャーやストレスなく児童を迎え入れられる越前小学校であるように、家庭や地域がしっかりと寄り添っていきたい。 ○地域には、DMAT(災害派遣医療チーム)の資格をもった方もおられる。講演会や赤ちゃん抱っこ体験等を活用し、生命の大切さを学んでほしい。